

※このメールは、東京都産業教育振興会の会員の皆様に対し、一斉に送付しています。



東京の産業と教育（電子版）
第57号 令和7年1月20日

この会報電子版は、専門高校を中心とした産業教育の魅力を発信しています。
会報電子版の記事は、都産振HPにも一部掲載されております。合わせてご覧いただければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

東京都産業教育振興会HP <https://www.tosanshin.org/>

☆今号のコンテンツ——☆

- 【1】第31回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会（11月）
- 【2】2024年度第2回都立工科・商業高校等の進路指導教員と会員企業との交流会（11月）
- 【3】戴帽式（11月）
- 【4】都立農業系高等学校による都庁都民広場花壇の秋季花植え（12月）
- 【5】産学懇談会（第3回）（12月）
- 【6】第12回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会（12月）
- 【7】作文コンクール表彰式（12月）
- 【8】都立農業系高等学校生徒による門松の飾りつけ（12月）
- 【9】情報提供のお願い

☆——☆

【1】第31回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会（11月）

11月16日（土）、都立練馬工科高等学校にて、東京都立工業高等学校長会主催の令和6年度第31回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会が開催されました。この大会は、工業科生徒が日ごろの研究成果を発表させ、生徒の主体性、創造性及び課題解決能力、表現力などの育成に努め、工業科相互の活動状況を理解することにより、生徒の意識高揚と学習活動の活性化を目指しています。今年は口頭発表の部18、パネル発表の部7でした。いずれも日頃の研究や実践の積み重ねを発表する熱気に溢れた大会でした。口頭発表は、各校とも生徒が日ごろから取り組んでいたことを研究成果として、

いかにわかりやすく伝えられるかを工夫して発表していました。どの発表も素晴らしいものでした。

講評は拓殖大学工学部早川信一教授より、各校の研究成果を称えるとともに成果も大事ですが研究の動機についてももう少し重みを置いて触れたほうがより良いものとなりますとの指導・助言もいただきました。

口頭発表の最優秀賞は、【学術】都立多摩科学技術高等学校「海藻ごみのリサイクル～アルギン酸単量体の存在比の分析～」と【実践】都立蔵前工科高等学校「（仮称）蔵前工科高校改築工事 第2次計画」が受賞し、東京都産業教育振興会会長賞は都立六郷工科高等学校「一人乗りミニカーのカスタマイズ」が受賞しました。また、パネル発表は、都立科学技術高等学校「空に浮かぶマイクロなものをCatch!～大気中のマイクロプラスチックを回収してわかったこと」が受賞しました。なお、教育庁から高橋秀雄都立学校教育部都立学校改革推進担当課長、長谷克己都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長、田中智弘指導部高等学校教育指導課指導主事が審査員として参加しました。



【2】2024年度第2回都立工科・商業高校等の進路指導教員と会員企業との交流会（11月）

5月に引き続き、11月26日（火）午後1時30分からTKPガーデンシティPREMIUM東京駅日本橋にて、東京商工会議所人材支援センター主催の「2024年度第2回都立工科・商業高校等の進路指導教員と会員企業との交流会」が開催されました。当日は、都立の工科高校（9校）・商業高校（5校）・農業高校（2校）・産業高校（1校）の17校、会員企業103社が参加いたしました。



【3】戴帽式

11月16日（土）、愛国高等学校衛生看護科2年生の「第58回戴帽式」が愛国学園記念講堂にて挙行されました。戴帽生のご家族、そして衛生看護科1・3年の生徒、衛生看護専攻科1・2年の看護学生および戴帽生の同学年全生徒と、教職員に見守られ、式は厳粛ながらも温かな雰囲気の中、執り行われました。大きな声で唱えた「ナイチンゲール誓詞」に、戴帽生の決意が感じられ、会場は感動もひとしおでした。

式での誓いを胸に、戴帽生は近隣の病院・施設等のご協力を頂きいよいよ臨地実習が始まります。



【４】都立農業系高等学校による都庁都民広場花壇の秋季花植え（１２月）

令和６年度秋の都立農業系高等学校による都庁都民広場花壇の秋季花植えが、農芸高等学校全日制課程、瑞穂農芸高等学校全日制課程、農業高等学校全日制課程、青梅総合高等学校定時制課程、園芸高等学校全日制課程、農産高等学校全日制課程の生徒たちにより行われました。

農業を学ぶ高校生による都民広場花壇の花植えは平成６年度から始まり、今年で３１年目を迎えました。生徒が自ら考えた花壇デザインを基に都庁都民広場花壇の作成を行うもので、花壇のデザインから花壇作成までの一連の実習を通して、園芸に関する基本的な知識と技術を身に付け、学習意欲の向上を図ることを目的としています。

参加校の生徒たちからは、「都庁花壇は、自らが考えたデザインが形となって、都民だけでなく海外からの旅行者や修学旅行生などに見ていただけてうれしい」、「自分たちの学習の成果を見てもらえる良い機会になり、都庁で作業することで農業高校のアピールに繋がった」など感想が聞かれました。

都立農芸高等学校



都立瑞穂農芸高等学校



都立農業高等学校



都立青梅総合高等学校



都立園芸高等学校



都立農産高等学校



【5】産学懇談会（第3回）（12月）

令和6年度産学懇談会（第3回）は、日本工学院専門学校蒲田キャンパスを会場に、12月5日（木）午後2時から午後5時まで開催しました。専門学校日本工学院蒲田キャンパスは、創立77年、卒業生数は約16.5万人、多彩な学科を持つ総合専門学校です。地上20階、地下1階の3号館、4,000人収容の日本工学院アリーナ、クラブハウス棟、音楽系実習棟など、充実した学習環境が整っています。

また、蒲田キャンパスでは、クリエイター、ミュージック、デザイン、IT、テクノロジーの全5カレッジに多彩な学科・コース・専攻があります。

当日は、開会の挨拶を西澤宏繁会長、山野大星会場校校長、長谷克己都立学校教育課高等学校教育課ものづくり教育推進担当課長より頂き、その後、校内見学（施設・設備等）を行いました。

見学後、中村英詞副校長から学校概要や特色ある教育活動について詳しく説明を頂きました。その後、懇談会に移り、参加者から施設見学・学校説明に対する質問・感想が述べられました。また、専門学校の現状と課題、教育活動への期待について意見交換を行い、有意義な機会となりました。

最後に謝辞を西澤宏繁会長より頂き、閉会となりました。専門学校日本工学院蒲田キャンパスの皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



【6】第12回東京都立総合学科高等学校教育活動成果発表会（12月）

12月14日(土)、東京都教職員研修センターにて、東京都高等学校総合学科教育研究会主催の令和6年度第12回東京都立総合学科教育活動成果発表大会が開催されました。この大会は、全日制総合学科高校の生徒による教育活動の成果発表であります。発表会は、可能な限り総合学科教育の特質を表すものとし、基本的には、生徒の発表会とし、必要に応じて教職員が加わるものです。今年は10校10口頭発表でした。どの発表も素晴らしい内容のものばかりで、各学校の特色ある教育活動が生かされていました。



【7】作文コンクール表彰式（12月）

12月20日（金）、本会主催・東京商工会議所後援「作文コンクール」表彰式を東京商工会議所にて開催しました。

第一次選考を経て第二次選考委員会を、中学校の部は10月24日に、高等学校・専修学校の部は10月25日に開催し、52作品の入選を決定しました。なお、入選作品は入選作品集「明日に生きる」第35号に掲載し、会員の皆様に送付いたします。

	応募校	応募数
中学校の部	27 (26)	178 (139)
高等学校の部	21 (19)	155 (131)
専修学校の部	3 (2)	12 (11)

（ ）内は昨年度の実績です。

なお、今年度は、「作文コンクール」の応募数が過去最多となりました。会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

当日出席いたしました役員の皆様は次のとおりです。（敬称略）

会長 ForeVision(株) 取締役 西澤 宏繁
副会長 (株)カナック企画 相談役 金子 昌男
副会長 東京商工会議所 常務理事 小林 治彦
常任理事 教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長 長谷 克己
理事 東京経営者協会 事業部長 海老澤 大造
理事 岩倉高等学校長 森田 勉
理事 東京都立赤羽北桜高等学校長 金澤 正美
理事 羽村市立羽村第一中学校長 三浦 利信
理事 教育庁指導部 主任指導主事 山本 進一
理事 目黒区立第十一中学校長 田井 俊行
理事・事務局長 教育庁都立学校教育部 高等学校教育課 課長代理 薄隅 直人

また、選考委員の皆様は以下のとおりです。（敬称略）

町田市立真光寺中学校長 矢島 加都美
台東区立駒形中学校長 渡邊 和彦
品川区立鈴ヶ森中学校 副校長 大山 剛史
世田谷区立三宿中学校長 濱川 一彦
多摩市立聖ヶ丘中学校長 矢野 尚子
世田谷区立深沢中学校指導教諭 黒飛 武志
教育庁指導部義務教育指導課 統括指導主事 宮西 真
東京都立江東商業高等学校長 智片 将也
東京都立農産高等学校長 平柳 伸幸
東京都立橘高等学校長 深澤 栄次
東京都立東村山高等学校長 富川 麗子
京華商業高等学校 教頭 小口 浩史
ハリウッド美容専門学校 キャリア教育センター長 佐藤 和彦
教育庁指導部高等学校教育指導課 指導主事 田中 智弘
教育庁指導部高等学校教育指導課 課長代理 古川 薫



【7】都立農業系高等学校生徒による門松の飾りつけ

12月25日(水)、都立農芸高校の生徒たちが丹精込めて作り上げました門松を東京都教育庁第二本庁舎15階の瀧沢佳宏教育監へ届けに来ました。瀧沢教育監は、生徒が作り上げ立派な門松を見て、大変喜んでいました。

門松は、瀧沢教育監室前に置かれました。その後、都立農芸高校吉野剛文校長と中島多恵子先生、生徒3名は、山田道人指導部長と和やかな雰囲気でお話をしていました。その際、生徒たちは山田指導部長よりこの経験を今後の学校生活に行かし、頑張ってほしいと激励されていました。

門松(かどまつ)は、正月に日本の家の門前などに立てられる松や竹を用いた正月飾りであります。松飾り、飾り松、立て松とも言い、新年の季語として使われます。古くは、木の梢に神が宿ると考えられていたことから、門松は年神を家に迎え入れるための依り代という意味合いがあります。「松は千歳を契り、竹は万歳を契る」と言われ、松と竹で神の依代の永遠を願う。年神はこの松門を目印に降臨してくると言われています。

(Wikipedia より)





【8】情報提供のお願い

特色ある教育活動情報など、ホームページに掲載したもの、あるいは掲載していないけれども会員の皆様に知ってもらいたいものがありましたらお気軽に事務局早川までご連絡ください。会報電子版でご紹介させていただきます。

【お願い】

この「東京の産業と教育（電子版）」は全文が著作権で保護されていますが、東京都産業教育振興会の会員校や会員企業の内部では情報共有してくださるようお願いいたします。

東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内

東京都産業教育振興会 事務局 （担当：早川）

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

TEL 03-5320-6729 都庁内線 53-247

E-mail: Tadanori_Hayakawa@member.metro.tokyo.jp
